ハワイ大学所蔵の日本語教科書について

大　橋　敦　夫
Ohashi Atsuo

キーワード：日本語教育・日本語教育史・日本語教科書・ハワイ大学

0. はじめに

ハワイをフィールドにしたこれまでの日本語研究・日本語教育研究を、本稿付録の文献目録をもとに概観してみる。すると、日本語研究の面では、日英の言語接触という場面で展開される母語（日本語・方言）保持の問題や、バイリンガルの実態などに主たる関心が寄せられ、研究が蓄積されてきたことが明らかである。一方の日本語教育研究の面では、それぞれの時期における授業報告を中心に、歴史的な部分にも鍬入れがなされてきたと言えよう。

本稿では、筆者が関心を寄せる日本語教育史の面から、ハワイの日本語教育史上において作成された日本語教科書に注目し、それが現在どのような保存状況であるのか、という点に迫りたい。その取りかかりとして、ハワイ大学所蔵の日本語教科書の実情を報告し、あわせて、このテーマに関する今後の調査課題を明白にしたい。

1. ハワイにおける日本語教育略史と日本語教科書

本報告の前に、ハワイにおける日本語教育略史を移民史と関連づけて示し、それぞれの時期に使用された主な教科書名を掲げ、実情報告の目安とする。

◆ハワイ日系移民史と日本語教育の歴史(1)

Ⅰ．元年者時代……1868（明治元）年～1884（明治17）年

Ⅱ．官約移民時代……1885（明治18）年～1894（明治27）年

——日本語教育の萌芽，国定教科書を使用（帰国が前提）

Ⅲ．私約移民時代……1894（明治27）年～1899（明治32）年

——日本語学校設立の機運

Ⅳ．自由移民時代……1900（明治33）年～1907（明治40）年

——日本語学校の増加（78校）

Ⅴ．呼び寄せ移民時代……1908（明治41）年～1924（大正13）年

——1915ハワイ教育会設立

1922外国語学校取締法制定

Ⅵ. 移民禁止時代……1925（大正 14）年～ 1941（昭和 16）年

——1927 ハワイ教育会教科書編纂会議（日本語読本，修身教科書の編纂）

1935 ハワイ教育会日本語読本編纂会議（『日本語読本』の改訂）

Ⅶ. 第二次世界大戦時代……1941（昭和 16）年～ 1945（昭和 20）年

——全島の日本語学校は即時閉校

Ⅷ. 日系二世の台頭　戦後一世時代……1945（昭和 20）年～ 1991（平成 3）年

——1947 日本語学校再開

1956 教科書の改革（『にっぽんごのほん』）

1965 釘本久春氏による小学部教科書の改編

◆ハワイで使用された主な教科書(2)

［明治期］……(1)－(8)は、明治時代の日本語学校で使用された教科書（田辺三之丞氏談）

(1)　金港堂（1891）『新撰高等日本語読本』8 冊

(2)　金港堂（1900）『高等国語読本』8 冊

(3)　文学舎（1902）『高等国語教科書』8 冊

(4)　文部省（1903）『高等小学読本』8 冊

(5)　文部省（1897 ～ 1899）『沖縄県用尋常小学読本』8 冊

(6)　金港堂（1900）『尋常国語読本』8 冊

(7)　文部省（1903）『尋常小学読本』8 冊

(8)　文部省（1909 ～ 1910）『尋常小学読本』8 冊

(9)　ハワイ教育会（1910）『日本語読本　高等科用』巻 1,2

［大正期］

(1)　ハワイ教育会（1917 ～ 1918）『日本語読本　尋常科用』巻 1 ～ 6

［昭和期］（戦前）……(1)(2)(4)(5)(7)は、ハワイ教育会非所属校で使用された。

(1)　ハワイ縣教育局（1925）『日本語初歩』巻 1 ～ 6

(2)　本派本願寺学務部（1928 ～ 1929）『日本語副読本』巻 1 ～ 12

(3)　ハワイ教育会（1929）『日本語読本』巻 1 ～ 6

(4)　日本語教育協会編纂（1931）『日本語読本』巻 1 ～ 12

(5)　本派本願寺学務部（1934）『実力のつく日本語学習書』巻 1 ～ 6 夏季休暇用

(6)　ハワイ教育会（1938 ～ 1940）『日本語読本』巻 1 ～ 12

(7)　(2)の改訂版（1938 ～ 1940）

［昭和期］（戦後）

(1)　ハワイ教育会（1949 ～ 1951）『とくほん』『読本』

(2)　ハワイ教育会（1956 ～ 1963）『にっぽんご』『日本語』

(3)　ハワイ教育会（1967 ～ 1972）『にっぽんごのほん』『日本語の本』

(4)　ハワイ大学（1969）『Learn Japanese Secondary School Text』

(5) ハワイ日本語普及教育振興基金(1978～1983)『にほんご』Book 1 - 9

(6) ハワイ教育会（1980～1988)『にっぽんごのほん』『日本語のべんきょう』

2. ハワイ大学所蔵の日本語教科書

ハワイ大学内で、日本語教科書を主に所蔵しているのは、マノア校内のハミルトン図書館である(3)。館内では、一般フロアー（開架）のほか、Japan Special collection（閉架）、Hawaiian collection（閉架）の中に収められ、点在している状態である。

今回の調査（2007. 8）では、開架部分に74冊の教科書を確認できた。比較的新しいもの（7, 13, 30など）とともに、歴史的な資料と言い得るもの（1, 2, 5, 24など）が混在しているのが特徴である。また、貸し出し用に、表紙を厚紙に改装したものもある。書名を中心に以下に列挙しておく。

(1) JAPANESE Exercises in Direct Military Interrogation Vol. Ⅱ（1955）

(2) JAPANESE Glossary for Exercises in Direct Military Interrogation（1956）

*(1)・(2)とも Army Language School Presidio of Monterey, California

(3) 『正しい日本語』国際学友会(1977)

(4) 『日本語読本』ヴァカーリ語学研究所（1964）

(5) 長沼直兄著『標準日本語読本』UNIVERSITY OF CALIFORNIA PRESS（1953）

(6) 『日本文抜萃』ハーバード燕京研究所（1960）

(7) 『青空』ハワイ大学出版会（2003）

(8) 『上級日本語読本』講談社（1974）

(9) 片桐ユズル『はじめてのにほんご』大修館書店（1990）

(10) 『日本新聞読本』SETON HALL Univ.（1962）

(11) 『日語学習文選』商務印書館（1964）

(12) CONPREHENDING TECHNICAL JAPANESE（THE UNIVERSITY OF WISCONSIN PRESS, UNIVERSITY OF TOKYO PRESS）（1975）

(13) 『科学技術基礎日本語』金沢工業大学（2000）

(14) 『理工学を学ぶ人のための――科学技術日本語案内』創拓社（1992）

(15) 『綜合基礎日語』北京出版社（1982）

(16) 『文化初級日本語Ⅰ／Ⅱ　教師用指導手引き書』凡人社（1992/1991）

(17) 『訳注　科技日語自修文選』商務印書館（1964）

(18) 『日本語会話・書簡』王子出版社〈ソウル〉（1966）

(19) 『Jet Age Japanese』自由社印刷株式会社（1970）

(20) 『新日本語』北京出版社（1982）

(21) 『日西会話練習帖』大学書林（1965）

(22) 『常用日語900句』内蒙古人民出版社（1981）

(23) 『東西笑話』KELLY & WALSH, LTD.（1915）

(24) 『日本語　口頭訓練教材　改訂長沼読本』米国陸軍学校（1961）
(25) Readings in Japanese Language and Linguistics ミシガン大学（1965）
(26) 『外国人のための日本語読本――初級――』文化庁（1981）
(27) 『外国人のための日本語読本――中級――』文化庁（1983）
(28) 『にほんごきいてはなして』The Japan Times（1989）
(29) 『日本語の基礎Ⅰ／Ⅱ』スリーエーネットワーク（1995/1993）
(30) 『新日本語の基礎Ⅰ／Ⅱ』スリーエーネットワーク（1995/1995）
(31) 『新日本語の基礎Ⅰ　教師用指導書』スリーエーネットワーク（1992）
(32) 『日語自修読本（一）――基礎日語知識』商務印書館香港分館（1976）
(33) 『日語自修読本（二）――現代日語語法』商務印書館香港分館（1976）
(34) JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Ⅰ／Ⅱ KODANSHA INTERNATIONAL（1994/1996）
＊同一書の冊数等は、省いて掲げた。

閉架図書の Japan Special collection には、643 冊の教科書(①)があり、Hawaiian collection にも、5 冊の教科書(②)が含まれている。さらに、これらとは別にモイイリ日本語学校からの寄贈書(③)が 600 冊ほどある。

①は、寄贈等により集積されたもので、著者・書名・出版年・請求番号が付された一覧表が作成されており(4)、前章で見た書名をおおむね確認できる。②は、主として 1980 年代にハワイ教育会で作成された教科書（『にっぽんごのほん』『日本語の本　中等科』）である。③は、読み物（たとえば、日本児童文庫（アルス）等）が主体で、教科書は含まれていない模様だが、当時の教育現場にあった図書の実態を窺い知るのには好資料である。

3. 教科書研究の意義と課題

過去の教科書は、それ自体として貴重なものだが、使い込まれ、書き込みがあるものも、その内容を分析することで、今日の教育へのヒントを得ることが期待できる。

たとえば、今回の調査でも、管見ながら、以下のような実例を見ることができた。

(1) 対訳・注の実例（文部省『尋常小学読本　巻二』大正 6（1918）年の本文欄外）

「日」に対し sun の書き込み（p.1）
「人」に対し man の書き込み（p.4）
「大」に対し big の書き込み（p.4）
「口」に対し mouth の書き込み（p.6）
「チユウ」に対し tochu － on the way
chu（same as 中　naka）の書き込み（p. 10）
「ヤウ」に対し yo like の書き込み（p.11）

(2) 発音に関する注記の実例（本派本願寺学務部『日本語副読本　巻三』昭和 3（1928）年の本文下に添えて）

「小やへ」に対し koya の書き込み（p.11）
「たび人と熊」に対し kuma の書き込み（p.16）
「中をとおっておりますと」に対し tootte の書き込み（p.16）

(3) 発音重視の表記法（布哇教育会編『日本語』十一昭和 36（1961）年：下線は筆者）

そお、ありがとお。今　すぐ　行きます。(p.12)

みなさんわ、もお、六年生に　なったのですから、にっきの　かき方を　べんきょおして　おきましょおね。

にっきと　ゆうのわね、朝　おきてから、夜　ねるまでの　ことを、毎日　かいておくのです。(p.17)

入門期にあって、音声教育を徹底・重視していたことを窺わせる部分である。

4. おわりに――今後の課題――

前途のように、日本国内でも、インターネットによって書名のみの確認は可能だが、書誌調査となると、基本である実物確認は欠かせない。ハワイ全島に点在する資料をマッピングした総合的目録がない現状からすると、まずは、それぞれ日本語教科書を所蔵する機関に赴き、その書誌調査を進めることが第一である。訪問先としては、以下のようなところが想定される。

① ハワイ大学
② ハワイ教育会
③ ハワイ日本文化センター
④ ビショップ博物館
⑤ 公立図書館
⑥ 各日本語学校
⑦ オアフ島以外の関連施設

書誌調査の次は、そのデータベース化の仕事が待っている。平行して、教科書の内容分析を進めることで、過去の遺産を現在と未来の教育活動に生かすことが期待される。

(注)

1. ジャック田坂氏「ハワイ日系移民発展史」『新ハワイ百科』(イースト・ウェスト・ジャーナル社(ホノルル)1991.9)参照。
2. 芥川照寿氏(1998・1999)参照。
3. 学部・学科の研究室にも所蔵されてはいるだろうが、閲覧に供するような状態ではないだろうとのことである(バゼル山本登紀子氏談)
4. ハワイ大学ハミルトン図書館日本文庫に問い合わせれば、インターネットによって、日本国内でも閲覧可能である。

【参考文献】

長柄　迪氏　「米国・カナダの日本語教育」『講座日本語と日本語教育　第15巻　日本語教育の歴史』明治書院　1991.6

フランクリン・王堂氏，篠遠和子氏
『図説ハワイ日本人史1885～1924』B. P. ビショップ博物館（ホノルル）1985.5

横山　學氏　『書物に魅せられた英国人――フランク・ホーレーと日本文化――』吉川弘文館　2003.9

[謝辞]

ハワイ大学ハミルトン図書館の調査においては、バゼル山本登紀子氏（日本文庫スペシャリスト）・飯島えりこ氏（助手）・餅原智子氏（助手）のご協力を得ました。記して、深謝申しあげます。

[付] ハワイをフィールドにした日本語研究関係文献目録（稿）

■日本語学関係

[論文]

伊波　普猷	序に代えて――言語問題を中心として観察した日系市民の将来――		
	大宜味朝徳『最近の布哇事情』海外研究所	p.1 - 10	1932.4
	ブラジルとハワイの邦字新聞から		
	言語生活125（筑摩書房）	2p	1962.2
釘本　久春	ハワイの日本語		
	日本語4 - 9，10(国語を愛する会)	3p	1964.10,11
釘本　久春	ハワイの日本語(3)～(7)		
	日本語5 - 1～7	15p	1965.1～8
安倍　　勇	ハワイと日本語		
	言語生活167	8p	1965.8
ウエハラ ユクオ	ハワイのくらしことば――日系単語――		
	日本語5-11	3p	1965.12
ウエハラ ユクオ	ハワイ独特の生活日本語		
	日本語6-5	2p	1966.5
安倍　　勇	ハワイと日本語の問題（中間報告）(2)		
	東京工業大学学報34	16p	1967.3
安倍　　勇	ハワイにおける日英語の発音接触		

東京工業大学学報 34　4p　1967.3

塩田　良平　ハワイの日本語と日本文
国語国字 43（国語問題協議会）　2p　1967.12

武田　守正　ハワイの日本語
高校文芸 2-2（東京出版センター）　2p　1968.2

神鳥　武彦　ハワイの日本語生活
同氏『ことばの生態学』東京堂出版　1971.2

井上　忠雄　ハワイ日系人の日本語と英語
言語生活 236　9p　1971.5

野元　菊雄　ハワイ日系人の言語調査
学術月報 24-11（日本学術振興会）　3p　1972.2

Suzuki T., Hayashi C., Nishihara S., Aoyama H., Nomoto K., Kuroda Y., and Kuroda Alice K.: A study of Japanese - Americans in Honolulu, Hawaii. —— Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Supplement No.7　1 - 60　1972

野元　菊雄　ハワイにおける日系人(4)　ハワイ日系人の言語調査
数研研究リポート 33（統計数理研究所）　28p　1973.3

野元　菊雄　日本語と日系人
林　知己夫編『比較日本人論　日本とハワイの調査から』中央公論社
p.123 ～ 162　1973.8

野元　菊雄　ハワイ日系人の読み書き能力
『国立国語研究所論集 4　ことばの研究 4』秀英出版　14p　1973.12

野元　菊雄　ハワイ日系人の日本語能力
計量国語学 68　9p　1974.3

比嘉　正範　ハワイの日本語の社会言語学的研究
学術月報 26-11　p.705-711　1974

黒川　省三　ハワイの日本語・一世の人称代名詞使用を中心にしての一考案
日本方言研究会第 21 回研究発表会発表原稿集　1975.11

黒川　省三　「ハワイの日本語」研究の問題点（研究発表・討論の要旨）
都立大方言学会会報 65　3p　1975.11

大島　一郎　ハワイ日系一世とその言語生活の一面（研究発表・討論の要旨）
都立大方言学会会報 68　3p　1976.4

黒川　省三　ハワイの日本語——一世の人称代名詞使用を中心に——
言語 5-9（大修館書店）　7p　1976.9

黒川　省三　ハワイの日本語　日英二重言語話者による両言語切替使用状態の一考察
言語 7-10　12p　1978.10

小林　素文　ハワイ日系人のバイリンガリズム

愛知淑徳大学論集 8　16p　1982.12

足立　聿宏　ハワイ日系人の言語的同化過程とその社会的背景(1)(2)
関西外国語大学研究論集 37，38　36p　1983.1，9

黒川　省三　ハワイの日本語
平山輝男博士古稀記念会編『現代方言の課題 1　社会的研究篇』明治書院
p.199-220　1983.6

伊勢紀美子　ハワイ日系人の日英語の接触――方言の水平化に関する考察――
東洋英和女学院短期大学研究紀要 22　14p　1984.1

足立　聿宏　ハワイ日系人の言語的同化過程とその社会的背景(3)　真珠湾から立州まで
関西外国語大学研究論集 41　24p　1985.1

比嘉　正範　ハワイアン・ジャパニーズ
言語 14-11　3p　1985.11

足立　聿宏　ピジンか標準語か：ハワイ日系人の言語行動
関西外国語大学研究論集 51　16p　1990.1

本堂　　寛　ブラジル日系人の日本語についての意識と実態――ハワイ調査との対比から
平山輝男博士米寿記念会編『日本語研究諸領域の視点　上』明治書院
16p　1996.10

橋尾　直和　ハワイ日系人の言語と文化に関する意識(1)――沖縄系日系人二世の調査を中心に
高知女子大学文化論叢 1　p.1-17　1999.3

本田正文・島田めぐみ・谷部弘子
ハワイ日系人をとりまく日本語環境の分析　日本語の歌が今も生き続けるハワイ
東京学芸大学紀要　2 人文科学 56　p.45-54　2005.2

■日本語教育

［図書］

布哇教育会編纂部『布哇日本語教育史』
布哇教育会　702p　1937.8

上原　征生　『日系文化』
彩光社　95p　1955.6
――「布哇大学の日本語」(p.36-40)「かなづかい」(p.60-62)
「言葉づかい」(p.66-68) 所収

小沢　義浄編著『ハワイ日本語学校教育史』
ハワイ教育会　460p　1972.5

ウエハラユクオ　『ハワイの声――日系米人の随想録――』
(上原征生)　五月書房　209p　1975.11
――「ハワイ独特の生活日本語」(p.42-46)「ハワイ大学の日本語科」

(p.85-88)「言葉づかい」(p129-130)「ハワイのくらしことば」
(p.169-174) 所収

沖田　行司　『ハワイ日系移民の教育史——日米文化，その出会いと相剋——』
ミネルヴァ書房（京都）　260，6p　1997.1

沖田　行司　『ハワイ日系社会の文化とその変容——一九二〇年代のマウイ島の事例—』
ナカニシヤ出版（京都）　1998.3
——沖田　行司「馬哇教育会の協調精神と日本語学校」(p.4-31)
国生　寿　「日系人の団体行動」(p.32-55)
金子　邦秀　「『馬哇新聞』に見る日本語学校の行事と教科書」(p.56-83)
飯田耕二郎「香蘭女塾と神田重英」(p.84-105)
フランクリン・王堂「ハワイの二世——一九二〇年代」(p.108-126)
井上　智義「マウイの日系二世の教育と言語環境—オーラル・ヒストリーの分析をもとにした心理学的アプローチ—」(p.127-155)

［論文］

林　三郎　布哇出生日本人問題——附　日本語学校と日本人寺院——」
同氏『布哇島一周』コナ反響社（ハワイ島）p.286-229　1925.10

渡部　七郎　日本語教育（p.444-455）・附録（一）日本語学校沿革（118p）
同氏『布哇歴史』興学会教育部　1935.10

釘本　久春　ハワイの日本語——日本文化の普遍性・日本語教育の現状——
日本語 6-1（国語を愛する会）　7p　1966.1

金田一春彦　ハワイの日本語教育
ことばの宇宙 3-10（テック言語教育事業グループ）　14p　1968.10

阿刀田　稔子　ハワイの日本語教育雑感
たより 33（日本語教師連盟）　3p　1969.3

伊藤　芳照　ハワイ・アメリカの日本語学園　3 週間出張旅行記
ISI 会報 13（国際学友会）　4p　1971.3

ララビー　澄　ハワイ大学における日本語教育
日本語教育 19　p.42-45　1973.5

町田　時保　ハワイに於ける日本語教育の今昔と諸問題
『日本文化論集 Studies on Japanese Culture vol. Ⅱ』日本ペンクラブ
1973.11

Yukiko S. Jolly　ハワイ大学における日本語教育
日本語教育 24　p.77-82　1974.8

麻生　喜美子　ハワイで日本語を教えて
センター通信 21（Kyoto English Center< 京都 >）　2p　1974.9

鮎沢　孝子　ハワイ大学の東亜言語学科のこと

音声学会会報 169　2p　1982.4

沖田　行司　ハワイ日系移民と教育——排日運動期における日本語学校
人文学 146（同志社大学）　30p　1988.9

山中　速人　海外日本語学校をめぐる文化摩擦の歴史的源流　ハワイにおける「試訴事件」の構造分析
異文化間教育 4　p.127-139　1990.5

井上　智義　ハワイ日系二世の教育と言語修得に関する一考察
『一九二〇年代ハワイ日系人のアメリカ化の諸相』
同志社大学人文科学研究所　1995

平高　史也　ハワイにおける日本語教育史
月刊日本語（アルク）9-1　p.1　1996.1

山本　　進　〈調査報告〉ハワイ大学の日本語教育について
日本語・日本文化 23（大阪外国語大学留学生別科・日本語学科）
p.135-136　1997.3

芥川　昭寿　海外での文化摩擦による日本語教育の展開　戦前でのハワイ教育会の場合
日本語教育研究 36　p.66-80　1998.11

芥川　昭寿　異文化間で編纂された日本語教科書の展開——戦後におけるハワイ教育会での視点　日本語教育研究 37　p.83-106　1999.6

窪田　晃子　「サービス日本語」という考え方　観光都市ハワイでの日本語教育の現状から考える
日本語教育研究紀要 2（昭和女子大学大学院）　p.65-69　2004.4

＊未確認タイトル——今後の調査課題

ハワイ教育会機関誌『日語教育』1～7号
- 1938.3.25（1号）……7タイトル
- 1939.4.25……17タイトル
- 1939.7.1……16タイトル
- 1940.5.1……18タイトル
- 1940.7.10（7号）……3タイトル

典拠：小沢義浄（1972）

＊＊主要典拠：『国語年鑑』『国文学年鑑』